

鐵道省工務局長

後藤佐彦氏

人間生活の興味は公的生活よりも寧ろ私的生活にある。後藤氏が鐵道改良工事の計劃者

として第一人者たる事は何人も異論のない處であるが其思慮周密なる人格の半面に中川式自強術あり、觀世流の謠曲あり、テニスありスキーあり、特に氏の書風は一家をなすもので本誌が墨色靜心の第一歩を飾つた通りである。而して明治四



十二年頃すでに鐵筋コンクリートに關する著述のある事は世人の餘り知らぬ處である。三

十八年の赤門出さして省内に異彩あるは氏の外に名古屋鐵道局長久保田敬一氏、建設局線路課長中村謙一氏工務局改良課長加賀山學氏札幌鐵道局工務課長田井九一氏等がある。

鐵道省工務局長 後藤佐彦氏

Mr. S. Goto, The Director of Maintenance Imperial Government Railways.



他山の石

眞剣なる態度を以て本文を読むと技術的に秋霜烈日の人を刺す如き感がある、責任感の何人か此の言に眞實共鳴せざるべき。(記者)

保線會議

に於ける

後藤局長

今日迄保線に對する献身的努力は深く之を認めて居るのであります、一面線路保守の成績に於て果して遺憾なしと稱し得らるゝかと云ふことは、私は甚だ疑問に考へて居るのであります、今日運轉の非常に頻繁なる線路は極く閑散なる線路に比較して果して保守が十分に行届いてあるか又一哩當の線路保守の費用と云ふものは能率が漸次増進しましたならば年々減少して行くのが理想的であるに拘らず其の跡を認めないと云ふことは如何でありませう、又線路作業が殆んど進歩の跡を認めて居らないのは是亦何故であらう、其他私共は十數年前保線の事業に直接當つたが、其當時と今日を較べて非常に進歩した実績が見られて居ないと云ふことは、寧ろ私は非常に不思議に考へて居るのであります、之を言換へれば運轉方面の或は石炭の節約であるとか或は工場内の作業の能率増進であるとか云ふやうなものと較べまして遜色のあるのを認めるのは是は争はれない事實と考へて居るのであります、今日線路保守に投する金は總事業費二億七千萬圓の内實に四千三百萬圓に達して居るのであります、汽車賃、運輸費等に次ぎましての巨額なものになつて居ります従つて能率の如何に依りましては經費に及ぼす影響も亦甚だ大きいのであります、往々豫算は

澤山貫ふことを誇とするやうな傾向がありますけれども、私は哩數の増加とか或は運轉状態の發達に伴ふものは別としまして寧ろ年々減額することこそ誇とすべきと考へるのであります、我が鐵道省は申す迄もなく事業官廳でありまして他の役所とは大に趣を異にして居るのであります、少くとも費用を節し益金を益々擧げることが吾々の大に期待せねばならぬことと思ふのであります、若し吾々の努力に依りまして四千三百萬圓の壹割を節し得たしたならば實に其額は四百萬圓と云ふ大きな金であります、是は吾々の苦心工風に依りまして線路保守の状態を悪くすることなく寧ろ良くしても尙ほ斯の如き金は節し得らるゝと深く信じて居るのであります、今日迄斯の如きことが餘り顯著なる成績を示して居らないと云ふことは果して如何なる點に屬して居るか今其原因を考へて見ますと、是は畢竟今日迄線路工手を始め保線従事員の配置であるとか又線路保守作業の内容及其の方法、又監督の方法であるとか、此等のものが殆ど從來の慣習を踏襲して、居りまして大體に於て改善の跡が無く、一口に申せば全く保守主義を採つて居つたと云ふことが大いに原因を爲して居ると考へるのであります。

